



## NEWS RELEASE

株式会社 すららネット  
2022年8月2日

### 守山市で「すららドリル」を活用した学力向上に関する実証事業を実施 ～小中学校の連携施策で平均点が27点以上向上した学校も～

株式会社すららネット(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:湯野川孝彦)は守山市教育委員会とICT教材「すららドリル」を活用した学力向上に関する実証事業を市内の中学校4校、約1,000名の中学1年生を対象に実施しました。

今回の実証事業では、4教科400点満点の確認テストにおいて、4校の平均点が前年比で約18点向上、中には平均点が27点以上向上した学校もありました。これにより、各中学校の確認テストの結果と「すららドリル」の課題達成率には高い相関が確認されました。



守山市教育委員会は、2020年よりEdTech導入補助制度を活用し、市内小中学校で「すららドリル」の利用を開始しました。学力面や意欲面の向上といった成果を受け、2021年9月からは13校で本格的に活用が始まりました。

この度の実証事業では、従来、中学校への進級前に小学校で学んだ内容を復習することを目的に市内の小中学校で例年実施していた「ブリッジワーク」と中学1年生の4月に実施していた確認テストなどの紙教材に替えて、デジタルの「すららドリル」を活用しました。

実証事業以前は「ブリッジワーク」と確認テストは紙で実施していましたが、「個別最適な課題になっていない」「小学校から中学校へ進級するため課題の進捗確認が難しい」「確認テストの採点における教員の負担が大きい」「確認テストの結果に基づいた弱点克服の仕組みがない」などの課題がありました。



## NEWS RELEASE

従来の紙での運用から「すららドリル」を活用した運用に移行したことによって、個別最適な出題による学習の効率化、学習ログを引き継げることで中学校進級までの間の学習状況の可視化、採点などの教員の手間の削減などが実現できるようになりました。また今回の実証事業を通して、確認テストの平均点が前年比で 20 点近く向上しました。

また、テスト結果とすららドリルの課題達成率には相関が確認でき、特に国語と算数において、特に高い相関がみられました。

今回の成果より、『課題を取り組ませる環境』を整えることが、生徒の学力を向上において効果的であるとデータの裏付けが取れた結果となりました。

今後は、全小中学校にすららドリルで一律標準化された課題を出し、全体的に取り組み状況を上げていくことを目指して運用していきます。

すららネットは今後も、新しい学習体験を届ける事業活動を通じ、学習者に「大人になっても役に立つ真の学力」と「努力をすれば結果が出るという自信」を提供していきます。

### ■AI×アダプティブラーニング教材「すらら」、アダプティブドリル「すららドリル」について

「すらら」は、小学校から高校までの国語、算数／数学、英語、理科、社会 5 教科の学習を、先生役のアニメーションキャラクターと一緒に、一人一人の理解度に合わせて進めることができるアダプティブな e ラーニング教材です。レクチャー機能、ドリル機能、テスト機能により、一人一人の習熟度に応じて理解→定着→活用のサイクルを繰り返し、学習内容の定着をワンストップで実現できます。初めて学習する分野でも一人で学習を進めることができる特長を生かし、小・中・高校、高等教育機関、学習塾をはじめ、放課後等デイサービス等においても活用が広がっています。

「すららドリル」は、アダプティブなドリルと自動作問・採点機能を有するテストからなり、「すらら」の姉妹版として主に公立小中学校向けに提供を開始しています。

### ■株式会社すららネットについて

すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念とし、アダプティブな対話式 ICT 教材「すらら」と「すららドリル」を、国内では約 2,500 校の学校、塾等 43 万人を超える生徒に提供しています。全国の公立学校、有名私立中高、大手塾での活用が広がる一方で、発達障がいや学習障がい、不登校、経済的困窮世帯を含む生徒に学習の機会を提供するなど日本の教育課題の解決を図ることで成長を続け、代表的な EdTech スタートアップ企業として 2017 年に東証マザーズに上場しました。